【まなび】と【であい】のひろば

公民館通信
2024年
12･1月号
No.317

# たのしいまち

編集：たのしいまち編集委員
発行：多摩市立永山公民館 〒206-0025 多摩市永山 1-5 ☎042(337)6661 FAX042(337)6003
多摩市立関戸公民館 〒206-0011 多摩市関戸 4-72 ☎042(374)9711 FAX042(339)0491

## ひと♥ネットワーク

## 暇だ〜って言ってみたい

永山フェスティバル実行委員会　委員長　伊東　伸浩　さん

第25回永山フェスティバルが9/21土22日両日で開催された。多摩市内最大の市民参加イベントともいえるこの催しは、永山公民館と100近くもの様々なジャンルの市民団体・近隣商業施設が、一体となって作り上げる秋のお祭りだ。グリナード広場ステージをメイン会場に、歌って踊って叩いて、聞いて見て食べて、学んで作って体験もできる。オープニングセレモニーには人気者「永どん」が駆けつけ、グランドフィナーレは、会場全体が「永どん」と一緒に♪永山ソングと♪永山音頭で大盛り上がり。振付動画サイトを見て練習してくれた人も多そうだ。

ロックバンド『WARUMONO』のボーカルとして、初めて永山フェスティバルに参加したのは18年前。その後実行委員として企画運営にかかわり、今では実行委員長として旗を振る。「みんながやりたがらないから」受けた役職。でも「みんなで回すものだから」、まず出演する人たちが喜び、楽しめるようにと話し合い調整する。場合によっては自己犠牲も辞さない強さがある。来年は、昭和で数えると100年の節目。それを第26回のテーマにしたいと楽しそうに話す。

生まれはS41年。聖蹟桜ヶ丘駅近くにかつてあった有名な豚カツの店「東克（トンカツ）」を父母が経営していた。ジャズを共通の趣味とする両親のおかげで家の中は洋楽であふれ、USAロックバンド「KISS」に出会った。憧れ、自らもロックの道へ。アマチュアバンドを結成し、あちこちで演奏して回った。

けれど…人生にずっと迷いを感じてきたという。誰もがいつ死ぬか分からない。自分のものなのに命をコントロールできない。生きることが面倒になるが、死ぬのはもっと怖い。いつしか刹那的になり、今が良ければ、オレのためにだけ、自分勝手、思いやりなんてない！そう断言するが、実はカッコ悪いことはもっと嫌い。だからずっとカッコ良く、いつ死んでもいいような生き方をしよう！そう思って生きてきたと笑った。

15年前、たのしいまち225号にご登場いただき今回2度目の伊東さん。笑顔は変わらないが、あごひげが白くなった。今では、実行委員長以外にも地域で責任ある立場に。諏訪4丁目自治会長として移転準備委員会にも関わり、防犯協会諏訪4丁目支部長、馬引沢・諏訪地域福祉推進委員長等々も兼ねる。時折、「ぜ〜んぶ辞めて立ち止まって考えてみたい」と思うそうだ。

はっきり物を言っても引きずらないええカッコしい。笑顔がめっちゃかわいい。バンド名と黒いTシャツに、人気者のばいきんまんが重なってしまった。

２頁〈永山フェスティバル〉　３頁〈関戸公民館に新しい机が！、文庫連会員がお勧めする本〉　４頁〈マンガ、コラム　え・と・せ・と・ら　他〉

# 第25回永山フェスティバル

2024/9/21(土)22(日)　　小田急・京王「永山」駅前エリアにて

永どん

多摩市永山地区
PRキャラクター

さあ、今年も永フェスの季節がやって来た。コロナで３年中止、４年目も規模を縮小しての開催だったが、去年からようやく以前の賑わいが戻って来た。永フェス観覧に命を燃やす筆者としては、この上なく嬉しい２日間であった。

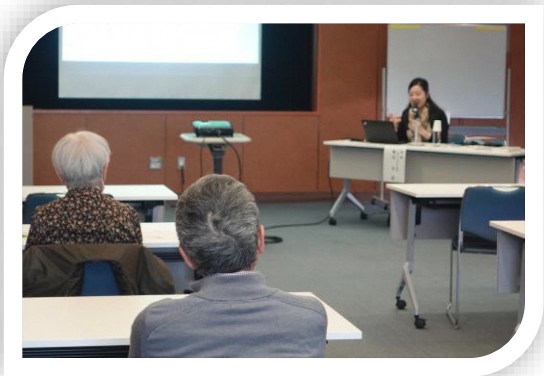
今年も４ステージで歌やダンスや太鼓、吹奏楽、盆踊り等、述べ90組以上が自慢の腕を披露した。ご当地アイドル、和太鼓アイドルも華を添える。演歌歌手の歌の上手かったこと！　これだ、このステージが私の感動を呼び起こすのだ。台風にも邪魔されずに無事に開催できたこと、本当にうれしい。多くのステージをこの目に焼きつけようと２日間、走り回った。

ベルブ永山では、３階ギャラリー、図書館前、ロビー、講座室がさまざまな出し物であふれ返った。４階も風船豆富体験、エコベル、遊びの広場がくり広げられ、永山児童館のプレイランドでは連日、遊びのコーナー目当てに押し寄せる子どもたちの笑顔が。グリナード永山でも高齢者疑似体験等、フリマもあちこちに。

ああ、今年もグランドフィナーレまで多くの人が残る中、みんなで歌って踊って、市民のためのこのお祭りは終わりを告げた。実行委員長のロックな挨拶に胸が熱くなる。これがないと１年が終わらない。来年もどうぞ賑やかに開催できますように。　（楽）

## 関戸公民館第1・2学習室に新しい机が入りました！

会議・学習会などで大人気のお部屋に新しい机が納入!!
第1・2の2つの学習室を同時に使用して大会議室としても使用できる、とても便利なお部屋です！
皆さまの更なるご活用をお待ちしております！

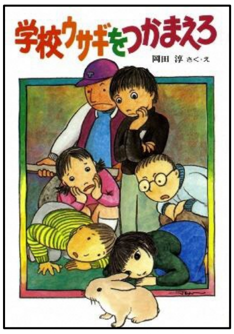


講演会にもぴったりです

シンプルなダイキャスト脚とフルワイドの
幕板が様々なシーンで使用しやすい
平行スタックテーブル

## 文庫連会員がお勧めする本

『学校ウサギをつかまえろ』　作・絵：岡田　淳　偕成社　1986 年




小学４年、転校生の美佐子はうっかり、学校のウサギを逃がしてしまう。夕暮れの工事現場。捕獲に乗り出す工事のお兄さんと子ども６人。知恵を出し合い協力する中、転校してきたばかりで、心細い美佐子を含めた７人、それぞれの事情が浮かび上がる。場所は１か所。登場人物は少ない。それでも読む子どもは日常の中の冒険として、ドキドキを感じるだろう。大人はそれと共に切なさも感じ、さらに作者の力量に舌をまくだろう。

多摩市文庫連絡協議会　おはなしどんぐり　中尾ふみ子

『葉と実でわかる　街路樹の呼び名事典』　写真・文：亀田　龍吉　世界文化社　2014 年

身近な街路樹８０種を紹介。どんぐりの木や松ぼっくりの木の紹介もあり、どの実が何という木の物か子どもの質問にも答えられる。美しく分かりやすい写真があり、名前の由来も紹介。たとえば、ヤマボウシは「中心の粒状の花を法師の頭に、花（びら）に見える白い４枚の総苞片を頭巾に見立て、山に咲く法師となり、転訛した」とのこと。また、ハナミズキは別名「アメリカヤマボウシ」と言うなど、二つ名までも。街歩きが楽しくなる。

多摩市文庫連絡協議会　おはなしどんぐり　中尾ふみ子

印刷サービス　原紙代＝原稿１枚 40 円、インク代＝紙１枚 0.3 円（印刷用紙はご利用者が持参してください）
コピーサービス　１枚１０円（白黒）　9:00～22:00（休館日、年末年始を除く）

## きよし☆この夜 ―永山の楽ちゃん―

## コラム え・と・せ・と・ら

青年海外協力隊員として、太平洋に浮かぶ小さな島国・パラオの小学校に派遣されて１年４カ月。今回は、パラオの生活で感じてきたカルチャーショックについてお伝えしたい。

世界第二位の肥満率を誇るパラオでは、とにかくたくさん食べる。１日５食、軽食はなく毎回の食の量が常に「多め」なのである。一皿食べ終わった後にさらにもう一皿が出てきたとき、「もうお腹いっぱいだから大丈夫」と断り続けていたら、それがパラオでは「無礼」に当たるのだと教えられた。お腹いっぱいなだけなのに…。さらに、頂いた食事をご飯粒を残さず食べ切っていたら、それは「意地汚い」行為なのだとも教えられた。日本では、ご飯粒一つでも残したら、それが無礼な行為に当たるのに…。

しかし、驚くのはこれだけではない。なんとパラオでは綺麗に着飾っている若い女性ですら、人前で平気に「ゲーーッ」とげっぷをする。げっぷができるのは満腹という幸福感の表れで、むしろいいことなのだとか。また、パラオでは地べたに座って手を使ってご飯を食べることも普通である。日本では「犬食い」と言って、むしろ軽蔑される行為だが…。始めは目の前でのげっぷも犬食いの姿にも驚いたが、最近はそれにも慣れてきた。「慣れ」って恐ろしい。と同時に、「知らない」のと「知っている」のでは、こちらの捉え方が全く違うのだということにも気づかされる。自分の視野を広げ、「知る」ことの大切さを感じる毎日である。

（ニーチェ）

ブログやってます。
Alii!!南の島　パラオから「こんにちは」

## 編集後記

☆最近ようやく涼しくなってきた。今年は寒い冬になるようで、今からスノーシーズンが楽しみ。（ふ）

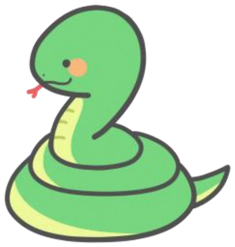
☆チャリで出勤中、車と軽く接触。お互い怪我はないが、修理代７万～請求される。翌週、チャリとチャリで出会いがしらにぶつかり、スピードはなかったものの、前輪と支柱が曲がって修理代２万８千、新車（４万）買った方がと言われる。嗚呼！（楽）

☆毎年開催している多摩映画祭が今年も無事に終了。授賞式に登壇している出演者が毎年豪華と聞いていたが、今年も豪華メンバー！　私は文化や芸術にとても疎いため、芸術的な感性を磨くことを今後の目標としていきたい。（や）

☆大谷翔平で始まり大谷翔平で終わった一年。毎日ワクワクしてたな。（月）

↑カラー版は
こちらから

**た**つ年終わる
**の**んきに冬眠
**し**てちゃダメ
**い**ち月１日
**ま**いたトグロに
**ち**ょろちょろ舌出し
出て来い巳(ヘビ)くん



**「たのしいまち」うた**　みなさまもチャレンジしてみてくださいね。楽しい作品、お待ちしております。